

製本のススメ

Vol. 158

残暑お見舞い申し上げます。まったくもって35度が夏の平温になりつつありますね、夏休みも終わり 秋に向けてスタートです。まだまだ暑さも続きますが気持ちを入れ替えていきましょう！

今回は**意外と知られていない製本の基本**の話し①

印刷側ではあり得ない作業で意外と知られていないのですが、製本加工では紙揃えが基本です。つまり紙の(折丁も同様)一辺で刷り本を揃えるという工程が不可欠です。印刷で言うなら「針・啞え」です。針と呼ばれるくらいですから印刷機は針側は1点が基準で(極端に言えば)一点を基準に用紙が斜めに印刷機へ入っても印刷できてしまうわけですが、製本では紙の辺2か所(直角辺)で合わせて作業が進むので斜めに刷れた用紙を紙折りにすれば印刷面がずれてしまうという事態が起こります。そこで折加工では**わざわざ紙をずらして印刷面のトンボで合わせて折る**という作業を強いられます。この現象は印刷用紙をきちんと化粧断裁せずに印刷された場合に多く見られ**製本短納期の大きな足かせの一つとなっています**。特に見開き等の柄合わせがある場合には、**絵を合わせるのとは不可能**ですので罫線や見開き柄がある場合には印刷用紙の段階できちんと直角を出したのち印刷機へ用紙をセットする事が必要です。

さて上記に書いた通り製本加工では二辺で揃えます、そのためサイズの違う用紙が混ざる事は作業中の異常に気付きにくく不良本の発生原因となります。例えばハガキを貼り込む場合には、冊子の中央に(機械で)貼り込むことができません。必ず天地のどちらかに合わせる必要があります。こういった時にもずらした折には極めて揃えにくく、不良が多く出やすくなります。昨今印刷加工予備枚数も少なくなりました。なるべく後加工で不良の出ずらい状態が理想ですので、直角の用紙にての印刷 また大きさを揃った刷り本を心がけてください。



Tea break

弊社 産休中のパートさんに目出度く女兒が誕生しました。目出度い時には赤飯と相場が決まっていますが、この赤飯 そもそも鎌倉時代より「ハレ」の日に宮中で食されたお祝いの食べ物でした。赤い色は魔除けの力があると信じられており、慶事には赤飯が用いられるようになったと言われています。

何はともあれ 無事に生まれてくれてよかったよかった。

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本